

## 2022 年度地域福祉チャレンジ活動新規助成対象活動概要

### 1. 高齢者の社会参加への場づくり：子どもたちと触れ合う地域の再生

NPO 法人 パルシック  
(東京都千代田区)

当団体は、海外協力とフェアトレードを主な活動としているが、2018 年 6 月に東京都葛飾区に、地域の誰にも開かれた「居場所」づくりを目的としたコミュニティカフェ「みんかふえ」を開設し、国内における事業にも力を入れている。

本助成事業では、「みんかふえ」を拠点として、地域で人と人が繋がり、集い、見守り、困ったことがあれば自然に相談しあえる、多世代の居場所づくりを展開する。とりわけ高齢者が、自発的な利用者として、さらにはボランティアとして、子どもや貧困世帯や在留外国人など多様な人びとに接しながら社会参加する機会を提供していく。活動としては、①ボランティアの育成と組織化、②カフェの開催、③交流イベントの開催、を中心に実施する。

地域住民を中心としたボランティアを育成、組織化し、週 3～4 回のカフェの運営や月 1 回の地域住民の交流イベント、その他付随する活動を、高齢者を含むボランティアが主体的に運営できるように事業を展開することにより、地域共生へ向けて自らの役割を自覚していく、参加型の福祉まちづくりを目指す。

### 2. 町民の孤まり事を減らしたい！共生型居場所から始まる重層的支援

社会福祉法人 函南町社会福祉協議会  
(静岡県田方郡函南町)

当団体は、社会福祉法第 109 条に規定された地域福祉推進を目的とした民間組織である。住民や幅広い関係者の参画により、地域福祉活動の充実や社会資源開発をすすめ、調査・広報・人材育成・計画作りなどに取り組んでいる。

本助成事業では、いわゆる福祉や医療、介護といった制度上のサービスには結びつかない“狭間の人”が「孤まり事（困り事）」を抱えた状態から、必要とする社会資源とつながりを持ち、あしたへつながる場づくりを目的として「またあしたカフェ」の運営に取り組む。

制度上の支援を前提とした従来型の支援体制では、それぞれの業務の範囲を超えた関わりが難しい。今年度より新たに取り組む重層的支援体制整備では「困りごと」を宙に浮いた「孤まりごと」にさせない地域づくりが重要である。

「またあしたカフェ」を起点とした制度の枠に縛られない人や資源とのネットワーク構築について、町内の社会福祉法人だけでなく、行政や県社協、企業等の多角的な視点も得ながら、県内初の先行事例として整理することを目指す。

### 3. 人生の見取りまで含む生活支援「東郷ささえ愛 家族」

#### NPO法人 ノーマ Café (愛知県愛知郡東郷町)

当団体は、東郷町にて令和2年より日常生活サポート事業を始め、翌年にその拠点「ささえ愛 ステーション」を開設。町内の生活弱者の人たちが地域の中で助け合い、支え合うことで自立できる仕組みをつくり、一生を穏やかに暮らすことができるまちづくりに取り組んでいる。

本助成事業では、官民の生活支援サービスの提供範囲、利便性等の現状課題に対し、高齢者の生活状況の多様性や個々のさまざまな背景を踏まえ、人生の看取りまでの息の長い支援を地域企業等と連携しておこなう。

具体的な取り組みとしては、①日常生活支援及び見守り(本年9月より高齢者見守り配食事業を展開予定)②身元保証③少子終活サービスの展開にあたり、東郷町、社会福祉協議会、地域包括支援センター、弁護士・税理士事務所、衣食住関連企業、介護施設や葬儀会社等と連携体制を構築していく。

これにより、高齢者に対する多様性のあるシームレスな支援体制をつくりあげ、地域共生社会の実現を目指す。